

---

**紹介して下さい**

しずく

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紹介して下さい

### 【Nコード】

N6445J

### 【作者名】

しずく

### 【あらすじ】

マルチ商法にハマってしまった友人。

巻き込まれる彼女の元に来たメールは…。

これは、幸せになれる方法。

あなたも私も、  
みんな幸せになれるのよ。

さあ、今直ぐ  
友達を紹介しましょう。

「でね、最初に40万払えば、あなたの努力次第で何百万も稼げるのよ！元なんかすぐ取れちゃうわ！」

目の前に座った20代半ばくらいの女が、興奮しているようで大声でそう言った。

ああ…五月蠅い…

この女からくる香水の匂いで吐き気がする…  
隣りに座ってる幼馴染みの恵美は何がそんなに面白いのか、ニコニコと笑いながらずっと私を見ている。

私は苦笑しながらじつと話を聞いていた。

元はと言えば、恵美を信じた私がバカだった。

『話したい事があるの』

そう言われてやって来たのは、こじんまりとしたオフィス。友達を紹介すると利益の一部が貰える…ようはマルチ商法の勧誘だった。

恵美がまさかそんなものにハマっているとは思いませんでした。着いて来て本当に後悔した。恵美に裏切られた気さえした。多分、実際恵美にそんな気はないのだろうけども……

その日、私は何とか適当に理由を付けて抜け出した。でも、それから私の苦勞は続いた。

「ねえねえ、この間の話なんだけど」

猫撫で声で恵美は近付いて来る。

もう、精神的にいつぱいいつぱいだった。

私を視界に入れると近付いて来る恵美に、憎しみさえ感じた事もあった。

あんなに楽しかった学校が、今ではこんなにつまらなく感じる…

全部あいつのせいだ、あいつの……。

20時過ぎ…

今日もクタクタになって帰って来た私は、鞆を放り投げるとベッドに横たわった。

はあ…、と深い溜め息を着く。

〃

ふと、携帯の着信音が鳴る。

この音はメールだ。

私は、ポケットの中から携帯を取り出すと中身を開いた。

【件名】 紹介して下さい

【本文】 あなたの嫌いな人を1人紹介して下さい。  
名前を入れて送信するだけ。

あなたの代わりに相手に罰を与えます。

「……………何これ…」

新卒のイタズラメールか何かだろうか…

何にせよ、今までにはないメールに何となく好奇心が芽生えた。

私は、恵美の名前を入れると送信ボタンを押した。

そんな事で、少し満足になる私が出た。

私は携帯を閉じると、その日はそのまま寝た。

次の日、恵美は死んだ。

学校の屋上から飛び下りたらしい。

私は驚いた。

メールには『罰を与える』としか書かれてなかった。  
罰は死を意味するのだろうか…

友達が死んだのに、不思議と悲しさはなかった。

それほどまでに恵美への関心がなくなってしまったのだろうか…

騒がしい校舎を歩いていると、徐に携帯が鳴った。

【件名】 紹介して下さい

【本文】 あなたの嫌いな人を5人紹介して下さい。  
名前を入れて送信するだけ。

あなたの代わりに相手に罰を与えます。

またあのメールだった。

私は、暫く画面を見てからそのメールを削除した。

くく

その日の夜中に、着信音で目が覚めた。

時計を見ると3時を指している。

思わず手で携帯を払い退けると、カシャンとベッドの下に落ちた。

私は、拾おうと眠い目を擦りながらベッドの下を見て、血の気が引いた。

【件名】 紹介紹介紹介

【本文】 あなたの嫌いな人を10人紹介して下さい。紹介して下さい紹介し紹介しよウかい紹介死死死しよウか紹介さてくださしよウか死て下紹……

ボタンを押していないのに、永遠とそんな文字が入力されている。

「ど……どうなって……」

震える手で、携帯を取ろうとするとベッドの下から青白い手が伸びて、私の手首を掴んだ。

「きゃああああ!!!!」

気付くと、私は横たわっていた。  
目の前で、横たわっていた。

大きく見開いた眼

口からは血を流し

携帯を握り締め

私は死んでいた。

不思議と驚きはなかった。  
だけど、何故か生きている人間が憎かった。  
憎い憎い憎い憎憎…。

そう思うと、目の前の死んだ私の手が動いた。  
携帯画面はあのメールだった。

『私』は送信ボタンを押した。  
空の宛先に……

そうすると、さっきまでの憎しみがスツとなくなった。  
まるで、メールと一緒に送ってしまったみたい…

私は…

今幸せに満ち溢れていた。

これは、幸せになれる方法。

あなたも私も、  
みんな幸せになれるのよ。

）  
）

「あれ、メールだ。誰からだろう」

さあ、今直ぐ

友達を紹介しましょう。

- 終 -

(後書き)

こんな友人、いる人にはメールが…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6445j/>

---

紹介して下さい

2010年11月12日20時34分発行